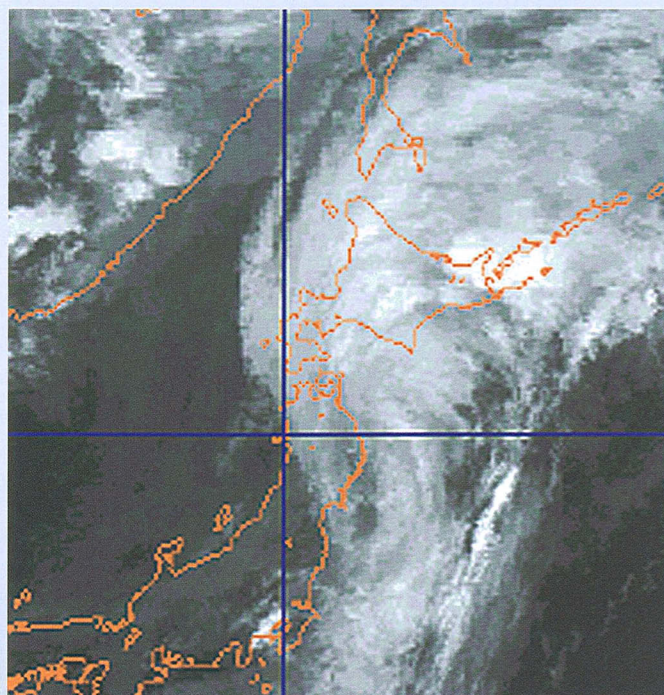


■静止気象衛星資料(平成15年8月9日22時) (札幌管区気象台)



■平成15年8月7日から10日にかけての 気象概況 (札幌管区気象台)

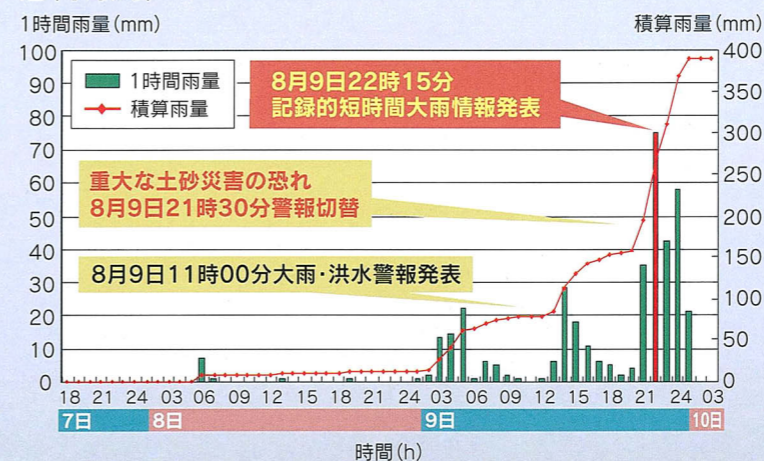
7日夜、沿海地方にあった低気圧から宗谷地方に温暖前線が伸び、この影響で7日夜から8日朝にかけて稚内では110ミリの大雨となった。8日朝宗谷海峡に新たに発生した低気圧は、その後、サハリンまで進み、夜には寒冷前線が道東から東北北部まで達していた。この前線は、一旦南下した後、台風の北上に伴い9日朝には網走一旭川一札幌を結ぶ線まで押し上げられ、低気圧は、オホーツク海に進んで動きが遅くなった。また、夜には道東沖から日高地方に伸び、さらに渡島半島に達していた。

一方、台風第10号は9日21時には盛岡市の南南東に進んできており、この前線に向かって台風から暖かく湿った空気が次々と流れ込み、雨雲を大きく成長させた。この暖かく湿った空気は、亜熱帯気団特有のもので、赤道付近の海面から蒸発した水蒸気を最も多く含んだ空気である。このことによって、前線活動が非常に活発となり、日高地方では記録的な大雨となった。

■1年分の雨の3分の1が1日で

8月9日の大雨は各地で記録的なものとなった。特に日高管内平取町旭の観測地点での8月9日の降雨量は記録を取り始めてから最高となる358mmに達した。この地点での年間平均降水量(1132.2mm)の3分の1弱もの雨がこの一日で降ったことになる。

■気象観測所(アメダス)の時系列雨量図(日高地方) 旭(平取町)



平成15年8月27日 北海道総務部まとめ

- 人的被害** 死者行方不明者11名、負傷者3名(重傷1名、軽傷2名)
- 住民避難** 4支庁8町において3,058世帯7,304名に避難勧告
- 住家被害** 全壊16棟16世帯、半壊8棟8世帯、一部破損28棟28世帯、床上浸水126棟130世帯、床下浸水396棟431世帯
- 停電戸数** 1,419戸(8月10日11時)
- 断水戸数** 796戸2,162人
- 道道通行止め** 50路線60区間

平成15年9月1日 北海道開発局まとめ

- 国の設備などの被害額**
- 国管理の河川** 約54億円(河岸決壊、護岸の損壊など)
- ダム** 約3.8億円(流入した流木の引上費)
- 国道** 約4億円(橋の架け替えなど)



あっぱがわ ありあけし
厚別川(赤無橋付近から下流方向を撮影)